

特定非営利活動法人自遊の広場 令和3年度事業報告書

1 事業の成果

令和3年度は、新事業への取組み、情報発信強化を図った一年であった。8月に住宅型有料老人ホーム「やまぼうしの家」をオープン、農園・訪問庭事業であるフレイル事業「ハート de グリーンサポート」も年度当初より始動した。夏には、ホームページの刷新・法人パンフレットの作成・フェイスブックの取組み等、情報発信活動も活発に行った。

しかし、秋口より新型コロナウイルス感染が事業所の周辺でも流行し、当法人の各事業体も対応に迫られることとなった。

福祉・介護は人の繋がりこそ本質である。工夫を凝らして活動を続けたものの、「オープン」「人の輪」をキーワードにしてきた自遊の広場の活動も社会全体の沈みに伴い精彩を欠くものとなった。他の要因もあるだろうが、結果として利用率の大幅低下である。経済的には赤字となった。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア) 小規模多機能型居宅介護の運営に係る事業

○内容

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・新型コロナウイルスで、職員が感染。1・2月に「通い」中止という事態を経験した。市の感染対策課・福祉基盤課と連絡をとりながら対応。実働職員の限定、独居利用者宅訪問（安否確認・日常のケア）等、ほぼ滞りなく終えた。結果、発熱者はいたものの利用者への感染を極力回避することができた。
- ・また、生活リズムを可能な限り崩さない工夫が必要である。一例であるが「部活」と称し、手芸等の「クラフト部」、庭や畑で活動する「園芸部」、アロマセラピーを行う「アロマ部」等が自然発生的に誕生し、利用者職員一体となって楽しんだ。課題は残しつつもチームワークが活きた経験でもある。一方、心身共のひきこもりや孤独感のケアはこ
- ・色々な製作活動をし、一部を観光案内所「ふじのね」にて販売した。また、近辺のネコを描いた利用者の絵は、地元アーティストによってガチャガチャ（地産ガチャ）の商品として結実した。利用者の楽しみ、リハビリ的活動であるが、地域との繋がり成果である。
- ・忘年会等のイベントに、地元のアマチュアマジシャンがボランティアとして芸を披露してくれた。高齢者のボランティア育成の機会にもなっているともいえる。
- ・コロナの影響でイベントは規模縮小を余儀なくされたが、次のイベントに参加した。
 - 1) いろとりどり展（藤野の福祉施設と協働するアートイベント）：創意工夫に富んだ作品を製作することができた。そのため、「通い」時は活気があったといえる。
 - 2) 恒例の落語会：人数制限はあったが、利用者も楽しく明るい時間を過ごすことができた。

利用者減少について

・秋から冬にかけて利用者が大幅に減った原因としては、以下が考えられる。

- 1) もともと高齢者事業所は、利用者が増えない時期である
- 2) そのうえ新型コロナの影響で、新陳代謝がさらに不活発となった
- 3) 社会的に、介護保険サービスの利用控えが起きている
- 4) 相模原市は、特養が整備されたため、待機者が減った（小規模多機能の経過施設の役割がなくなった）。
- 5) 利用者負担（支払い）が「丸め」なのが忌諱されている。

来期はこれらをふまえた事業経営が必要になってこよう。

- 日時：通年
- 場所：すずかけの家及び訪問家庭、外出先
- 従事者：のべ2,983人
- 受益対象者：のべ5,587人
- 支出額：43,194,920円

イ) 住宅型有料老人ホームの運営に係る事業

○内容

前年度より開設準備を進めていた「やまぼうしの家」を8月に開所した。「やまぼうしの家」は、比較的元気な高齢者が一つの家で支え合いながら共同生活ができ、安心の中で多種多様なライフスタイルを過ごすことができる住まいを目指している。

これまで3人の入居者が生活をしており、2名は入院で退所したため、年度末の入居者は1名である。2階の居室（3部屋）へは階段を使う必要があり、入居を希望されても、階段が理由で断念するケースが多く見られた。次年度は、階段昇降機の設置を計画之中である。

入居者が道路掃除や散歩をしていると声をかけていただくなど、近所との日常的な関わりもあり、地域との関係もできつつある。

- 日時：通年
- 場所：やまぼうしの家
- 従事者：25人
- 受益対象者：3人（期間中の入居者数）
- 支出額：7,793,274円

ウ) 農園、訪問庭づくりを主にしたフレイル事業

○内容

前年度より開始した当フレイル事業を「ハート de グリーンサポート」という名称で、本格的に開始した。

訪問庭づくりでは、フレイル対策として、生活の質の向上を目指し、個人宅の庭仕事の手伝いを計11回実施した。墓地の掃除というニーズもあった。

高齢者に対応したバリアフリーの農園づくりでは、獣除け柵・瓦の設置、園路・苗床づくり、ハーブや果樹の定植をおこなった。資材については、地域に廃材の募集をよびかけ活用した。地域住民や近隣の保育園によびかけ、一緒にコミュニティガーデンづくりを開始した。

農場は、担当職員の研修の場ともなっている。担当職員は、外部機関で

の研修（年間、月2回程度）に参加し、園芸や農作業について知識と実地で学んだ。

当年度は、事業を広く知らせるため、事業のパンフレットを作成し、ホームページ、フェイスブック、回覧板（藤野情報）等を通じた広報活動にも力を入れた。

- 日時：通年
- 場所：訪問先及びコミュニティガーデン
- 従事者：6人
- 受益対象者：90人
- 支出額：1,080,359円

エ) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

- 内容・日時：元気を祝う会（敬老会、9月22日・23日 2回に分散して開催）、のびるっこ保育園交流会（11月5日）、津久井在来大豆の味噌づくり（3月8日）

毎年2、3月に開催している地域の人を招いての「津久井在来大豆の味噌作り」は、新型コロナウイルス感染防止のため利用者と職員のみとした。地域の「おばあちゃん」達の技が活きる行事なので、今後も続けていきたい。

- 場所：すずかけの家
- 従事者：40人
- 受益対象者：50人
- 支出額：0円（今年度は、上記アより経費を負担したため）

オ) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

◎イベント事業

○内容

- ・秋に、地元アーティストと福祉施設・事業所の共催で「いろとりどり展」を開催した。すずかけの家利用者もクラフト部を先頭に多様な作品を発表し、見学にも行った。（前記「すずかけの家活動報告」参照）
- ・瀧川鯉昇落語会
新型コロナ第五波が遠のいた11月7日、限定客70人で、2年ぶりに開催することができた。イベントを渴望していた人々が集まって大いに盛り上がった。落語家自身も喜んでいただ様子である。

- 場所：すずかけの家及び藤野地域
- 従事者：30人
- 受益対象者：300人
- 支出額：114,659円

◎情報発信

○内容

- 新事業を開始するのに伴い、それらの活動紹介も含めて情報発信に力を入れた。
- ・法人パンフレットの作成
法人を紹介するパンフレットを地域デザイナーの協力を得て、新たに作

成した。団体の成り立ちから、高齢者福祉への思い、各事業の紹介等、内容の濃いものになった。各所に配布したが、今後も活用していきたい。

- ・ホームページ・フェイスブックでの情報発信
法人のホームページを地域のデザイナーの協力を得て、新たに作成した。新事業も加えた法人全体の活動紹介のほか、スタッフ紹介、ブログも掲載し、身近に感じられるホームページづくりを心がけた。
また、フェイスブックを新たに開始し、各事業の日々の様子を発信している。
 - ・会報「自遊のひろば」
「すずかけひろば」あらため、会報「自遊のひろば～いくつになってもわが里山で、ささえあって暮らしていこう」を創刊、4回発行した。各事業の紹介や日々の活動の様子を伝えている。編集ボランティアも含めた編集委員4人がそれぞれが各号を担当し、個性豊かなものとなっている。
- 日時：通年
 - 従事者：15人
 - 受益対象者 不特定多数
 - 支出額：370,620円

(2) その他の事業
なし